



新潟県の地域文化と大学の取り組み：新潟大学人文学部附置地域文化連携センター地域歴史文化保全部門の取り組みを中心に(第2部報告)

矢田，俊文

(Citation)

地域歴史文化の育成支援拠点としての国公立大学：地域歴史遺産の保全・活用と防災, 平成23年度特別研究プロジェクト 国公立大学フォーラム:37-42

(Issue Date)

2011-12-11

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003726>



新潟県の地域文化と大学の取り組み

—新潟大学人文学部附置地域文化連携センター地域歴史文化保全部門の取り組みを中心に—

平成 23 年度特別研究プロジェクト
国公立大学フォーラム
「地域歴史文化の育成支援拠点としての国公立大学
地域歴史遺産の保全・活用と防災」
主催：神戸大学大学院人文学研究科
同地域連携センター
会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館
12 月 11 日（日）10:00～17:00
矢田俊文氏（新潟大学人文学部教授）

1. はじめに

1-1 新潟大学人文学部の社会連携の体制

1-1-1 人文学部附置地域文化連携センター

2004 年度に発足. 主として高大接続事業を担う「文化事業展開・連携部門」と地域の文化財の保護・保存のために活動する「地域歴史文化保全部門」で構成される

1-1-2 越佐・新潟学推進センター

佐渡をフィールドとして実習系科目を展開する「佐渡学部門」（2012 年度からは新潟学部門となる予定）、海外からの留学生と新潟県内を訪問して学習する「グローバル新潟発見部門」、新潟県内の映像資料の発掘・保存を行う「地域映像アーカイブ部門」で構成される

1-2 人文学部社会連携年報

2011 年 7 月にはじめて刊行された

2. 地域と連携した研究・教育, 地域の研究

2-1 2004 年中越地震・2007 年中越沖地震・2011 年新潟・福島豪雨被災地からの資料保全

2-1-1 活動記録の DVD 化

2-1-1-1 DVD『山古志民俗資料館収蔵品救出プロジェクトの記録 2005 年 5 月 21 日～22 日』新潟大学人文学部地域文化連携センター・新潟歴史資料救済ネットワーク, 2005 年を制作

2-1-1-2 DVD『新潟県中越沖地震被災地刈羽村民俗資料収蔵庫資料救出作業の記録（2007 年 8 月 25 日）』新潟大学・人文学部地域文化連携センター・新潟歴史資料救済ネットワーク, 2008 年を制作

2-1-1-3 DVD『新潟県中越沖地震被災地刈羽村民俗資料収蔵庫への民具返還プロジェクトの記録（2008 年 5 月 10 日）』新潟大学人文学部地域文化連携センター・新潟歴史資料救済ネットワーク, 2009 年を制作

2-1-1-4 DVD『2010 年 9 月山古志への文書返還活動の記録(2010 年 9 月 19-21 日)』新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野, 新潟歴史資料救済ネットワーク, 2011 年を制作

2-1-2 2004 年 11 月からの文化財・歴史資料救済の取り組み-新潟大学中心-

2-1-2-1 年表を参照

2-1-2-2 2004 年中越地震被災地の復興への取り組み, 2011 年新潟・福島豪雨被災地からの資料保全など

2-2 岩船郡平林村木村家文書の保全と活用

17 世紀から現代に及ぶ資料, 文書箱で 90 箱, 関東大震災の際の葉書もある

2-2-1 原 直史編『近世平林町と越後荒川の世界』新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 2009 年を刊行, A4, 総 117 頁

「本書は、江戸時代の岩船郡平林町の特徴を示すと思われる文書を選び出し、文書写真と翻刻を掲載している。また学士課程の学生の古文書学習に役立つと思われる基本的な文書も紹介し、必要と思われる文書には適宜解説を付した。越後荒川に接する平林は江戸に通じる街道の宿駅として、また荒川を渡る川船の基地として交通の要衝であった。参勤交替や幕府の巡見使や遊行上人などが往来する宿場としての勤めに苦悩する人々の姿も本書から垣間見ることができる。また荒川渡船を建造するための部材や費用を掲げた文書や川船の設計図は、ほかに見ることのできない平林の、荒川ならではのもので、貴重である。さらには荒川の鮭漁についての文書や若連中の規定書などもあり、平林町の人びとのくらしや荒川の世界を理解していただけたと思う」(原 2009)

2-2-2 芳井研一『近代岩船郡と平林村木村家文書』新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 2010 年を刊行, A4, 総 99 頁

「本書は、近代の岩船郡と平林村(町)木村家の特徴を示すと思われる史料を選び出し、写真を掲載して解説を加えたものである。解説には、木村初男氏からお聞きした内容も含まれている。

本書には、一八七六年(明治九)から一九四三年(昭和一八)までの史料を収載している。たとえば、一八八五年(明治一八)聯合会議事録からは、前年の地方制度の改正にともない設置された戸長役場と村々との関係がわかる。また、一八八八年(明治二一)頃の高等科村上小学の講義ノートからは当時の高等科小学校の生徒がどのような教育を受けていたのか理解できる。さらに、羽越鉄道が新潟駅から村上まで開通した一九一四年(大正三)の翌年に創刊された『村上時報』からは、鉄道開通による岩船郡の人々の期待の度合いを知ることができる。ほかにも、掲載した木村家決算帳簿、満州荒川郷視察関係史料、アジア太平洋戦争期の女性の日記から、近代新潟県岩船郡の人びとの暮らしや生業を理解していただけたと思う」(芳井 2010)

2-2-3 新潟大学附属図書館主催企画展「歴史地震を考えるー過去からのメッセージー」

会期: 2011 年 9 月 6 日～10 月 31 日, 会場: 新潟大学駅南キャンパスときめいと(新潟駅 1 分)に展示。関東大震災等, 新潟大学人文学部附置地域文化連携センター所蔵史料も展示。開催趣旨は次のようなものである。「学内に所蔵する貞観地震・高田地震・三条地震・関東大震災などの歴史地震に関する資料を展示します。3 月 11 日の東日本大震災から日頃の防災意識のあり方が問われています。地震大国日本では、歴史上何度も大きな地震に見舞われてきました。人々はそのたびに様々な形で記録を残し、その様子を後世の私たちに伝えてくれています。この「過去」のメッセージから私たちの「今」を考えてみませんか。」

2-3 新潟県立歴史博物館との共同研究

2-3-1 矢田俊文・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 古文書学入門』新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 2007 年 3 月, 総 57 頁の刊行,

2-3-2 矢田俊文・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 毛利安田氏文書』(新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊Ⅸ) 新潟大学, 2007 年 3 月, 総 64 頁の刊行

2-3-3 矢田俊文・新潟県立歴史博物館編, 『越後文書宝翰集 大見安田・水原文書』(新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊Ⅺ) 2008 年 3 月, 総 73 頁の刊行

2-3-4 矢田俊文・新潟県立歴史博物館編, 『越後文書宝翰集 上野氏文書・発智氏文書』(新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊ⅩⅢ), 2009 年 3 月, 新潟大学「東部ユーラシア周縁世界の文化システムに関する資料学的研究」プロジェクト, 総 74 頁の刊行

2-3-5 矢田俊文・新潟県立歴史博物館編, 『越後文書宝翰集 色部氏文書 1』(新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊ⅩⅤ), 2010 年 3 月 15 日, 新潟大学「東部ユーラシア周縁世界の文化システムに関する資料学的研究」プロジェクト, 総 87 頁の刊行

2-4 地域から研究材料を見つける

- 2-4-1 年号（享和2年〈1802〉2月）の記された越後荒川往還船の絵図 池田 2009
- 2-4-2 明治中期の理科教育
 - 2-4-2-1 木村家文書 明治23年物理筆記（高等科村上小学校）木村 2008
 - 2-4-2-2 新潟県立文書館教科書展 明治26年物理学筆記, 理科大試業答案（高等小学校, 永井玄真）ほか
 - 2-4-2-3 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究：明治中期「理科」・「科学」教育の実相・意義・源流の解明と今日的価値の新展開（2011年4月～, 代表小林昭三, 科学教育）
 - 2-4-2-3-1 明治22-24, 静岡県志太益津郡高等小学校生徒筆記講義録 写本25冊一括, 化学物理筆記等
 - 2-4-3 1833年庄内沖地震史料（日本海側江戸時代最大の津波被害を出した地震, M7.7）
新発田市立図書館所蔵新発田藩史料, 新潟市歴史文化課所蔵史料 矢田 2011
 - 2-4-3-1 地域の防災計画のための基礎史料

2-5 地域連携の取り組みに学生が参加することの意義

3. 地域文化を守り発展させるための課題

- 3-1 災害から文化財・歴史資料を守る. 災害を研究する. 防災に貢献する
- 3-2 世代交代と地域文化の保全
 - 3-2-1 大学独自の課題 旧制新潟高校卒業生・新潟大学1期生など
 - 3-2-2 木村家文書
木村初男氏；旧制村上中学, 旧制新潟高校, 新潟大学第1回卒業生（理学部物理学科）, 名古屋大学大学院理学研究科博士課程, 名古屋大学工学部助手, 助教授, 教授, 名誉教授
 - 3-2-3 原田文庫
原田新司氏：旧制長岡中学, 旧制新潟高校（野坂昭如と隣の席）, 新潟大学第1回卒業生（人文学部文学科ドイツ文学）, 新潟日報記者, 専務, 稀覯書作品12点19冊とゲーテの自筆書簡一葉を新潟大学附属図書館に寄贈, コレクションゲーテ『若きヴェルターの悩み』（初版1774年, 完成1787年）, 同『ファウスト 断片』（初版, 1790年刊行）等
 - 3-2-3-1 新潟日報2011年7月31日, 長岡空襲65年遺影は語る5, 家族7人失い孤児に, 体験継承へ収集資料寄贈
- 3-3 文化財・歴史資料の収蔵庫
 - 3-3-1 大学博物館の充実

4. おわりに

[参考文献]

- ・池田哲夫・飯島康夫・新潟県立歴史博物館編『山古志ふたたび』新潟大学附置地域文化連携センター・新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野, 2008
- ・池田哲夫「木村家文書にみる越後荒川往還船と造船技法」『新潟史学』62号, 2009
- ・木村初男「明治二十三年高等小学校生徒の物理ノート」『日本物理学会誌』63-11, 2008（本論文はダウンロードできる）
- ・桑原 聡「原田文庫解説」『新潟大学附属図書館報』116号, 2009（本館報はダウンロードできる）
- ・新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 越佐・新潟学推進センター編『人文学部社会連携年報 2010年度』新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 越佐・新潟学推進センター, 2011
- ・原 直史・矢田俊文「名古屋大学名誉教授木村初男氏からの歴史資料の寄贈について」『新潟大学附属図書館報』112号, 2007（本館報はダウンロードできる）
- ・矢田俊文編『新潟県中越地震 文化遺産を救え』高志書院, 2005
- ・矢田俊文編『新潟県中越地震と文化財・歴史資料-1年間のとりくみ-』新潟大学人文学部地域文化連携センター, 2006
- ・矢田俊文「文化財・歴史資料の地震対策-中越地震から中越沖地震へ-」『新潟史学』58号, 2007
- ・矢田俊文「文化財・歴史資料の救出」伊藤忠雄ほか『地震災害への備えを考える-中越地震・中越沖地震で学んだこと』新潟日報事業社, 2009
- ・矢田俊文, 笹川真理子, 原 直史, 池田哲夫, 飯島康夫, 古賀 豊「新潟歴史資料救済ネットワークの5年間の取り組み」『災害と資料』4号, 2010（本論文は, 新潟大学学術リポジトリでダウンロードできる）
- ・矢田俊文, 「明応地震と庄内沖地震の津波被害」『季刊東北学』28号, 2011
- ・矢田俊文・原直史・中林隆之・池田哲夫・飯島康夫・小野博史・齋藤瑞穂「三・一一以後の文化財・歴史史料保全の取り組み-新潟県を中心に-」『新潟史学』66号, 2011
- ・DVD『山古志民俗資料館収蔵品救出プロジェクトの記録 2005年5月21日~22日』新潟大学人文学部地域文化連携センター・新潟歴史資料救済ネットワーク, 2005年、25分（25分版、5分版あり。このDVDの使用権・複製権はクリエイティブ・コモンズ, 新潟大学学術リポジトリでみることができる）
- ・DVD『新潟県中越沖地震被災地刈羽村民俗資料収蔵庫資料救出作業の記録（2007年8月25日）』新潟大学・人文学部地域文化連携センター・新潟歴史資料救済ネットワーク, 2008, 10分（このDVDの使用権・複製権はクリエイティブ・コモンズ, 新潟大学学術リポジトリでみることができる）
- ・DVD『新潟県中越沖地震被災地刈羽村民俗資料収蔵庫への民具返還プロジェクトの記録（2008年5月10日）』新潟大学人文学部地域文化連携センター・新潟歴史資料救済ネットワーク, 2009年, 10分（このDVDの使用権・複製権はクリエイティブ・コモンズ, 新潟大学学術リポジトリでみることができる）
- ・DVD『2010年9月山古志への文書返還活動の記録（2010年9月19-21日）』新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野, 新潟歴史資料救済ネットワーク, 2011, 10分, （このDVDの使用権・複製権はクリエイティブ・コモンズ, 新潟大学学術リポジトリでみることができる）

(年表) 2004 年 11 月からの文化財・歴史資料救済の取り組み-新潟大学中心-

2004 年

- 10 月 23 日 中越地震 M6.8
- 10 月 31 シンポジウム「市町村合併と公文書保存」の直前に新潟歴史救済ネットワーク立ち上げのための会合, 公文書シンポで事務局を新潟大学人文学部に置くことが要望される
- 11 月 20 日 第 1 回小千谷市 A 家蔵歴史資料運び出し
2t トラック 2 台分の歴史資料を新潟県立歴史博物館に運び込む, 参加者 25 人
- 11 月 29 日 第 2 回小千谷市 A 家蔵歴史資料運び出し
2t トラック 1 台, 大型乗用車 4 台分の歴史資料を新潟県立歴史博物館に運び込む, 参加者 41 人
- 12 月 11 日 搬入した 2 トントラック 4 台分の歴史資料のクリーニング・目録作成作業を新潟県立歴史博物館で行う, 参加者 36 人
- 12 月 19 日 小千谷市にて, 歴史資料確認調査, 参加者 22 人

2005 年

- 4 月 17 日 十日町情報館が救出した岡田隆生家の古典籍の資料目録作成, 参加者 23 人, 3 台のデジタルカメラで撮影, 2068 コマ
- 5 月 13.14 日 11 月に被災地小千谷市から新潟県立歴史博物館に運び入れた資料目録の電子化版を小千谷市教育委員会社会教育課・新潟県立歴史博物館に送付. 目録作成作業は, 12 月 11 日, 1 月 8 日, 1 月 30 日, 3 月 12 日の 4 日間, 参加者延べ 111 人, 点数 1565 点, 個数 9176 個
- 5 月 21.22 日 山古志からの民具・文書の搬出, 両日で 100 人の参加, 県内の博物館・大学に勤務している民俗学研究者総出動. 運びだした民具は 4 トントラック 3 台, 2 トントラック 6 台分. 4 カ所に搬入, 新潟県立歴史博物館, 長岡市, 新潟県, 柏崎市と連携. 古文書は約 200 箱を搬出.
- 7 月 29 日 小千谷市佐藤明夫家・佐藤英一家の蔵・歴史資料の調査・救出
- 8 月 30~9 月 1 日 山古志から搬出した民具の資料目録作成作業. 新潟県文化行政課文化財収蔵庫. 新潟大学教員 (民俗学 2 名), 学生 30 名. 以後毎年実施. 山古志の住民も参加

2006 年

2007 年

- 7 月 16 日 中越沖地震 M6.8
- 7 月 19 日 柏崎市の土蔵と図書館の調査
- 7 月 22 日 柏崎市西本町商家 A 家. 東北芸術工科大学を中心とした山形県の文化財歴史資料救出グループ 4 名・新潟歴史資料救済ネットワーク 2 名で救出活動を行う. 1 トン積みワゴン車 2 台分
- 8 月 3 日 上記の「チラシを見た」という柏崎市民から新潟歴史資料救済ネットワークに連絡が入る
- 8 月 4 日 3 日に相談をうけたお宅の状況調査に出向き, 資料の一時避難のお手伝いを約束
- 8 月 25 日 刈羽村民俗資料収納庫の民具救出. 刈羽村教育委員会・新潟県立歴史博物館・新潟大学災害復興センターアーカイブズ分野と新潟歴史資料救済ネットワークが連携. 4 トントラック 3 台で旧寺泊高校に一時避難, 参加者 40 名. 初めての真夏の取り組み

2008 年

- 5 月 10 日 新刈羽村民俗資料収納庫への民具返還, 4 トントラック 3 台で, 旧寺泊高校より刈羽村新民俗資料収納庫へ民具返還, 参加者 39 名
- 3 月 25 日 池田哲夫・飯島康夫・新潟県立歴史博物館編『山古志 ふたたび』刊行 (発行: 新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野, 総 25 頁, オールカラー)
- 6 月 21 日~8 月 3 日 新潟県立歴史博物館「山古志 ふたたび」展開催

8月26日～28日 山古志から搬出した民具の資料目録作成作業(於:新潟県文化行政課文化財収蔵庫).
新潟大学教員(民俗学)2人・学生17人・長岡科学博物館1人・山古志分室1人・旧山古志村民2人, 整理・カード作成終了, 資料点数220点

2009年

2010年

9月19日～21日 長岡市山古志支所, 長岡市立中央図書館文書資料室と連携して, 2005年に山古志から搬出した文書の返還, 講演会, 目録作成, 文書調査を行った. 参加のべ人数72名

- ・坂牧家文書 坂牧善辰, 夏目漱石と交流
- ・星野家文書 星野仙之丞, 1896-1925 長野県の小県蚕業学校の助教諭・教諭, 山古志にもどると新潟県山古志養鯉組合長などを務める。星野家住宅は移築保存し活用される予定
- ・行政文書

11月28日 小千谷市A家資料返却作業。2tトラック3台. 2010年に元の敷地に新築されたA家に搬入. 参加者13名. 新潟県立歴史博物館職員1名, 小千谷市教育委員会職員1名, 新潟大学教員2名, 新潟大学学生5名, 新潟史学会1名, 運送業者職員3名

2011年

3月11日 東日本大震災
3月12日 長野県北部地震 M6.7
3月27日 津南町・十日町市方面に行く. 両自治体の文化財担当職員と話げできた
6月25-26日 長岡市山古志支所・長岡市立中央図書館文書資料室と連携して, 長岡市山古志の旧種芋原小学校において、旧村役場文書を中心とした歴史資料の整理作業を行う
これらの文書資料は、中越地震で被災した山古志の施設から2005年に当ネットが主体となって搬出し、昨年9月にあらたに保管場所となった旧種芋原小学校に再び運び込まれたもの. 参加のべ人数は74名. 参加者内訳：新潟大学, 上越教育大学, 新潟県立文書館, 新潟県立文書館文書調査委員, 新潟県立歴史博物館, 新潟市歴史博物館, 上越市公文書センター, 上越市総合博物館, 高校教員, 長岡市文書整理ボランティア
6月26-28日 新潟大学の1名, 岩手県に考古資料を中心とした保全のための予備調査に行く
6月28-30日 新潟大学・新潟市歴史博物館・新潟県立歴史博物館の5名, 宮城県石巻市牡鹿町鮎川旧牡鹿町文化財収蔵庫で民俗資料の保全・調査に行く. 民博・東北学院大・奈文研・東文研チーム合同
7月2日 新潟県立歴史博物館, 岩手県立博物館からの要請をうけて物資を輸送
7月30日 新潟・福島豪雨。南魚沼市の雲洞庵の裏山を流れる沢に土石流が発生, お堂を破壊, 宝物殿1階に流れ込む. 土砂は最高で床上1メートル以上に達した. 新潟県調べ(8月5日現在) 人的被害：死者4, 行方不明者1, 住家被害：全壊26, 半壊82. 床上浸水1596, 床下浸水7283
8月5日 新潟県立歴史博物館に雲洞庵より文書等の保全依頼
8月7-8日 長野県栄村文化財レスキューに参加, 7日約55名 8日約40名(うち新潟県, 7日27名, 8日, 18名)
8月20日 新潟県南魚沼市雲洞庵水損史料保全の取り組みに参加 新潟資料ネット9名
9月24-30日 長岡市山古志で坂牧善辰宛夏目漱石書簡を公開. 10月18-30日, 長岡市立中央図書館で公開
9月20日 新潟県立歴史博物館が一時的に預かっていた小千谷市A家の文書を小千谷市に返却, 小千谷市寄贈分 新潟資料ネット2名参加
10月15日 雲洞庵水損史料保全の取り組みに参加 新潟資料ネット16名